

2018 年度

点検・評価報告書  
－アセスメント結果の概要－

教職研究科

「アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果の測定及び可視化の推進」  
についての報告書（最終）

教職大学院

点検・評価項目⑥

学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

- 教育の成果や効果は、それぞれの学生の授業における学修活動や授業後の振り返りによって各教員が確認しており、成績評価の際にも、ティーム・ティーチングの担当教員が各学生の学修活動全体をデータとして評価することで把握することができている。また、学生全体の学修の傾向についても、 Semesterごとに行われる記述式の授業アンケートによって概要を把握することができている。
- 実習研究を行っている学生については、担当教員の実習校訪問及び、複数の担当教員がティームを作り、「学習指導の方法研究Ⅰ・Ⅱ」を通じて、その都度実習の状況を把握することで的確な指導を心がけており、実習の成果や効果については、確実に把握できている。
- 修了年度の学生は、それぞれの学修成果及び個別に設定した学修課題の達成度等を省察してまとめた教職課題研究論文を作成する。教職課題研究論文は、各自の教育課題を共通科目、分野別科目、実習研究の各履修領域及び自主的な研究にわたって省察して作成されるものであり、教職大学院での学びの集積でありエッセンスでもある。そこでは教職大学院の理論と実践の往還による多面的な学修を総合し、深め、学修の総まとめをする取組となっており、教育成果・効果の全体把握をする十分なデータとして機能している。論文の作成は、教職課題研究Ⅰ及びⅡの中で複数教員によるティームでの指導を受けながら行われることから指導と成果の評価が表裏をなしていると言える。さらに、論文提出後に行われる論文発表会では、連携協力校や教育委員会などの関係者による指導・助言を受ける機会もあり、質の評価についても客観的に行われていると言える。
- 修了生の学校現場での活躍の状況について、勤務校を訪問し、修了生本人や管理職との面談を行い、教職大学院で培った成果の把握の場としている。この修了生勤務校訪問は、同時にどのような内容の学修を学校現場が求めているかを知る機会として、また、修了生のアフターケアとしても機能している。

点検・評価項目⑦

教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

- 教職大学院では、自己点検・評価委員会を教職研究科委員会のもと位置付け、定期的に自己点検・評価を行うこととしている。毎 Semester、毎年度の振り返りに力を入れ

てきたが、とりわけ5年ごとの認証評価を貴重な自己点検・評価の機会と捉え、その後の改善に結びつけてきた。重要な課題と考えられる事案については、自己点検・評価委員会から各委員会に改善を検討するよう働きかけをしてきた。

- 学生からの意見聴取については、アンケート調査及びインタビューにより行われている。授業アンケート調査は、各 Semester 終了時に匿名性が保たれるように作成したアンケートを実施している。

また、学生へのインタビューは、東京都教育委員会や外部評価委員によるヒアリング等でのインタビューを活用したり、学生との懇談会（「教職大学院を語り合う会」、毎年1回、9月開催）を開催したりして、意見交換を行っている。このようにして学生から聴取したデータは、自己点検・評価のために活用されることはもちろんであるが、教務委員会により各科目の効果を検討し、よりよい教育課程を作成するために役立てられるなど、次年度以降の授業改善を模索する上での重要なデータとなっている。「教職大学院を語り合う会」について、学生からの要望もあり、初めて12月にも小グループでのディスカッションを加えた形で開催した。次年度以降も、会の運営の仕方を工夫しつつ、年度内に2回開催する方向を考えている。

2017年度に中学校専修免許状について課程認定を受ける際に、大幅に教育課程の見直しを行い、内容については大きな修正を求められることなく認定を受けることができたことは、安定感のある教育課程になっていると言える。

- 教職大学院は、先にも述べたように、多くの場面で学生への指導をチーム制で行うよう組織されている。このことは、指導の利便性や効果の大きさを理由としていることはもちろんであるが、それだけでなく、チームで動くことによって互いを評価し合ったりチームでの教育活動の有効性を常に評価したりすることができ、よりよい教育活動のための改善がなされることが大きな理由である。
- 以上のような日常的な活動と共に、FD活動として位置付けられた活動もしっかりと存在し、機能している。FD委員会において教育に関する情報提供活動を行っている。また、FD委員会は、教員の資質の維持・向上を図ることを目的として、授業内容及び方法の改善のための研修及び研究を行っている。FD委員会が中心となって計画・運営している「教職大学院FD研究会」では、先進的な研究をしている内外の研究者による講演・ワークショップや本教職大学院の教員が講師を務め、研究成果について紹介するだけに留まらず、柱としている「人間教育」を教育課程全体でどう実現していくかということや授業改善をいかに行っていくかといったことをテーマにした研究会も行われている。